

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和4年11月】

■調査概要（データ対象期間：令和4年11月1日～11月30日）

○調査期間：令和4年11月30日～令和4年12月16日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業20企業、製造業20企業、卸売業11企業、小売業21企業

飲食業15企業、サービス業37企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計124企業>

○調査項目：11月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅の縮小

1. 業況判断

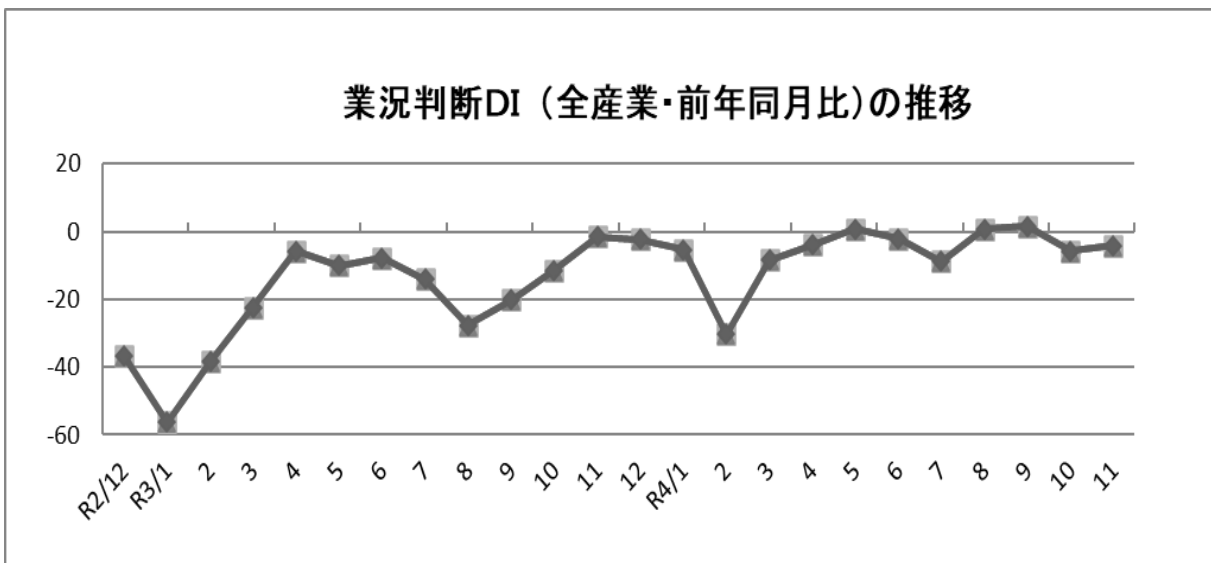
- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲5.7)よりマイナス幅が1.6ポイント縮小し、▲4.1となった。業種別では、サービス業はプラス幅が拡大し、飲食業はプラスからマイナスに転じた。小売業は0からプラスになった。製造業、卸売業、建設業はマイナス幅が縮小した。
- 全産業合計の水準DIは、前月(▲18.5)よりマイナス幅が4.8ポイント縮小し、▲13.7となった。業種別では、卸売業はマイナスからプラスに転じた。製造業、小売業、建設業はマイナス幅が縮小し、サービス業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	17.7 (16.9)	60.5 (60.5)	21.8 (22.6)	▲ 4.1 (▲ 5.7) ↗	12.9 (12.1)	60.5 (57.3)	26.6 (30.6)	▲ 13.7 (▲ 18.5) ↗
建設業	0.0 (0.0)	90.0 (85.0)	10.0 (15.0)	▲ 10.0 (▲ 15.0) ↗	0.0 (0.0)	95.0 (85.0)	5.0 (15.0)	▲ 5.0 (▲ 15.0) ↗
製造業	20.0 (5.3)	50.0 (63.1)	30.0 (31.6)	▲ 10.0 (▲ 26.3) ↗	25.0 (10.5)	40.0 (52.7)	35.0 (36.8)	▲ 10.0 (▲ 26.3) ↗
卸売業	18.2 (9.1)	54.5 (63.6)	27.3 (27.3)	▲ 9.1 (▲ 18.2) ↗	27.3 (27.3)	54.5 (27.2)	18.2 (45.5)	9.1 (▲ 18.2) ↗
小売業	23.8 (23.8)	57.2 (52.4)	19.0 (23.8)	4.8 (0.0) ↗	19.0 (14.3)	57.2 (52.4)	23.8 (33.3)	▲ 4.8 (▲ 19.0) ↗
飲食業	20.0 (30.8)	46.7 (53.8)	33.3 (15.4)	▲ 13.3 (15.4) ↘	6.7 (15.4)	53.3 (61.5)	40.0 (23.1)	▲ 33.3 (▲ 7.7) ↘
サービス業	21.6 (25.0)	59.5 (52.5)	18.9 (22.5)	2.7 (2.5) ↗	8.1 (12.5)	59.5 (55.0)	32.4 (32.5)	▲ 24.3 (▲ 20.0) ↘

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



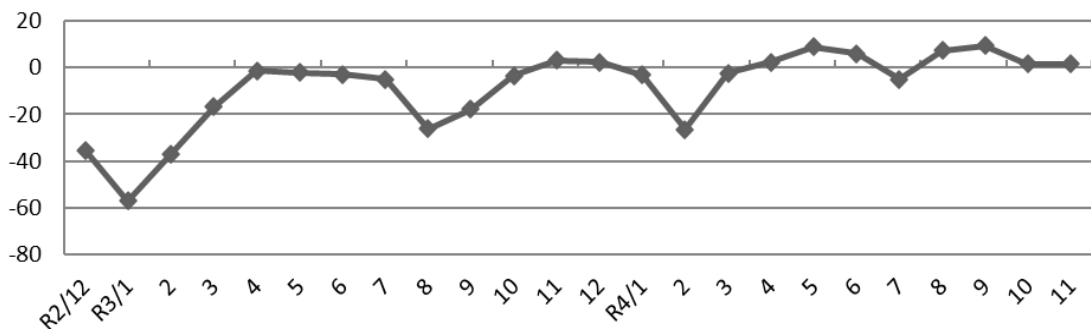
2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(1.6)のまま横ばいであった。業種別に見ると、卸売業はプラス幅が拡大し、小売業はプラスのまま横ばいであった。飲食業はプラスからマイナスに転じ、サービス業、製造業は0からマイナスになった。建設業はマイナスからプラスに転じた。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
全 体	3.0	2.3	▲ 3.1	▲ 26.5	▲ 2.3	2.4	9.0	6.0	▲ 4.9	7.2	9.4	1.6	1.6	→
建 設 業	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1	▲ 21.0	▲ 36.8	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 20.0	5.0	↗
製 造 業	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0	5.5	▲ 12.5	5.9	15.8	0.0	▲ 5.0	↘
卸 売 業	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0	0.0	33.4	58.3	9.1	27.3	↗
小 売 業	13.0	9.1	4.4	▲ 28.0	4.2	4.5	26.1	▲ 3.9	0.0	▲ 9.5	4.2	4.8	4.8	→
飲 食 業	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2	11.8	5.9	33.4	20.0	30.8	▲ 6.6	↘
サービス業	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0	17.0	4.8	7.5	0.0	0.0	▲ 2.7	↘

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



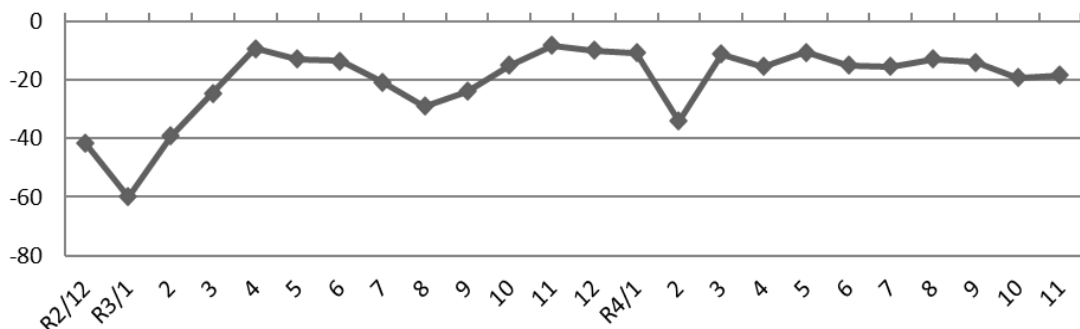
3. 営業利益DI（前年同月比）

○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲19.4)よりマイナス幅が0.9ポイント縮小して、▲18.5となった。業種別に見ると、小売業、建設業、飲食業、製造業はマイナス幅が縮小し、卸売業はマイナスのまま横ばいであった。サービス業はマイナス幅が拡大した。

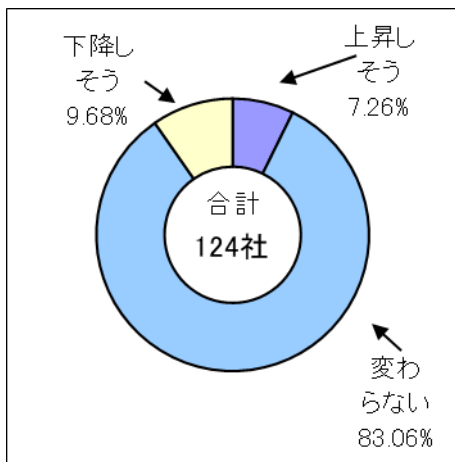
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
全 体	▲ 8.3	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 34.1	▲ 11.3	▲ 15.4	▲ 10.6	▲ 15.0	▲ 15.4	▲ 12.9	▲ 14.1	▲ 19.4	▲ 18.5	↗
建 設 業	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1	▲ 36.8	▲ 31.6	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 15.0	▲ 10.0	↗
製 造 業	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0	▲ 27.8	▲ 25.0	▲ 23.6	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 35.0	↗
卸 売 業	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4	▲ 8.3	▲ 9.1	25.0	25.0	▲ 18.2	▲ 18.2	→
小 売 業	4.3	0.0	0.0	▲ 16.0	4.1	0.0	8.7	▲ 23.1	▲ 27.8	▲ 42.9	▲ 4.2	▲ 28.6	▲ 9.6	↗
飲 食 業	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 26.7	↗
サービス業	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1	2.4	▲ 2.4	0.0	▲ 7.7	▲ 5.0	▲ 16.2	↘

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

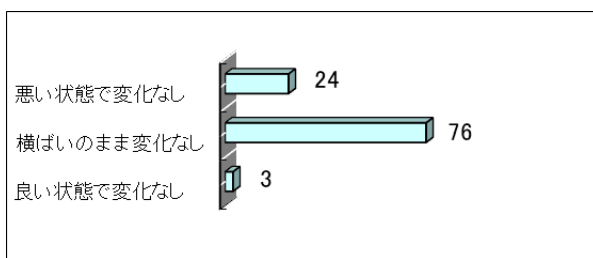


○令和4年12月～令和5年2月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ2.42ポイント下降し7.26%、「下降しそう」が2.42ポイント下降し9.68%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲10.0)、製造業(▲5.0)、卸売業(▲18.2)、小売業(9.5)、飲食業(13.3)、サービス業(▲5.4)であった。

➡「上昇しそう」では「1月以降の受注見込みが非常に好調なため」(製造業)「新型コロナウイルス感染症が心配ではあるが人出は確実に増えているため」「繁忙期に入るため」「政府の新型コロナウイルス感染症対策により、経済回復の兆しがあるため」(小売業)「宴会およびテイクアウトが増えると予想しているため」(飲食業)といった声が寄せられた。また「全国旅行支援の良い影響があるため」といった声が多数寄せられた。

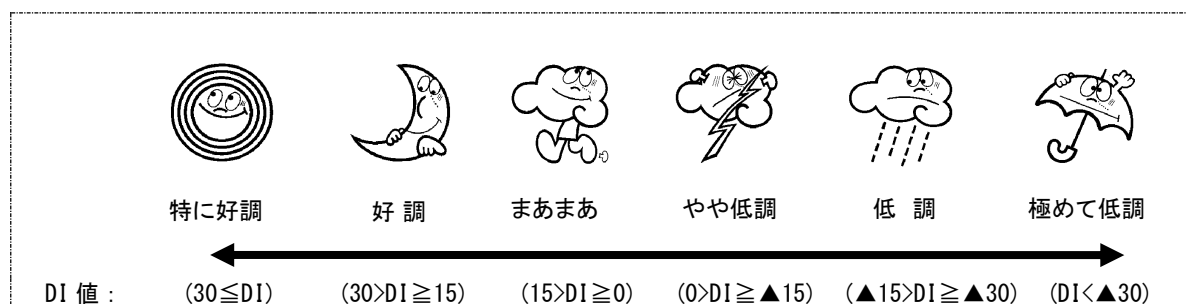
➡「変わらない」では「引合はあるが受注予定が立たないため」「職業訓練応募者数が比較的高水準で安定しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「確定した工事が無いため」「しばらくは厳しい受注価格が予想されるため」(建設業)「年が明けたら閑散期を迎えるため」(製造業)「シーズンオフであるため」「人員不足であるため」「新型コロナウイルス感染症の影響がありそうのため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「仕入価格や原材料の高騰の影響を受けているため」といった声が多数寄せられた。

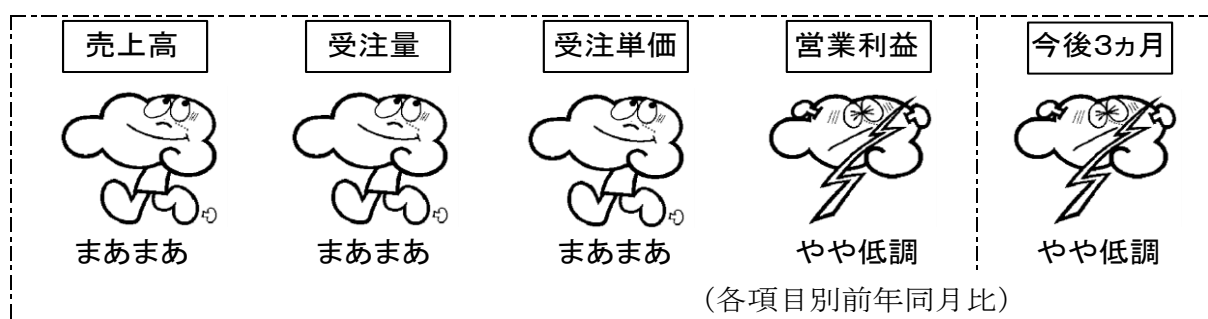


業種別景況

<D | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 23.8	▲ 25.0	▲ 15.8	▲ 19.1	▲ 21.0	▲ 36.8	▲ 10.5	▲ 10.5	▲ 20.0	5.0
受注量	▲ 5.3	▲ 38.9	▲ 31.5	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 15.8	▲ 31.6	▲ 5.3	▲ 15.8	10.0	0.0
受注単価	5.3	▲ 11.1	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 10.0	10.5	▲ 4.7	5.3	▲ 10.5	▲ 5.3	▲ 5.2	▲ 15.0	0.0
営業利益	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.8	▲ 30.0	▲ 31.6	▲ 38.1	▲ 36.8	▲ 31.6	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 15.0	▲ 10.0
見通し	▲ 5.3	▲ 5.5	▲ 15.8	▲ 19.0	▲ 5.0	0.0	▲ 4.7	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 10.0

<経営者の目・見方・e t c>

鉄工

・外国人を含めて求人が非常に厳しい状況にある。今後は求人と人材育成に成功した企業しか生き残れないのではないかと考えている。

・市況については先月と同様である。業界内組合の新年会は対面にて開催予定である。

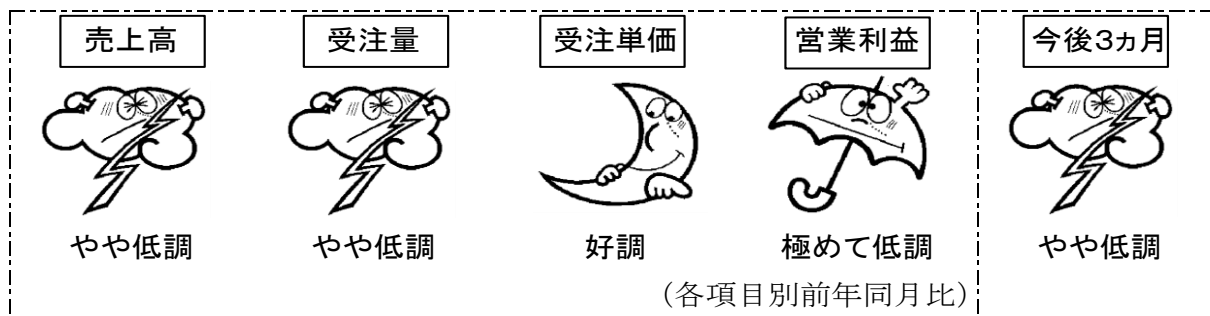
土木工事

・公共事業受注量は国、県、市町村共におおむね確保しているが、それ以上に配置する技術者がいないため厳しい状況である。

電気工事

・中小企業エネルギーコスト削減助成金を申請し工事を希望している事業所が多くあり、忙しくなってくるのではないかと考えている。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5	▲ 52.7	0.0	▲ 16.6	▲ 10.0	5.5	▲ 12.5	5.9	15.8	0.0	▲ 5.0
受注量	▲ 5.2	▲ 10.0	5.2	▲ 47.4	5.5	▲ 22.2	10.0	11.1	▲ 25.0	▲ 11.7	15.8	▲ 15.8	▲ 5.0
受注単価	5.3	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 5.5	11.1	5.0	16.7	6.2	11.7	15.8	21.1	20.0
営業利益	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6	▲ 57.9	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 50.0	▲ 27.8	▲ 25.0	▲ 23.6	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 35.0
見通し	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 15.8	5.3	▲ 22.2	▲ 16.7	▲ 5.0	5.5	▲ 12.5	5.8	0.0	0.0	▲ 5.0

<経営者の目・見方・e t c>

精密機械

・半導体や電子部品の不足、材料や諸経費の値上がりなど厳しい環境は相変わらずだが、来期に向けての受注見込みは非常に好調で推移しているため、今が仕込の時期だと感じる。

精密機器組立

・部品の入荷状況が改善しつつある。新規の引合が増えてきた。

小型情報機器組立

・全体に受注は上がってきたがまだまだ変動が多い。部品の入荷が定まっていこない。

金属塗装

・依然として半導体の入荷が悪く、製品化できずに生産を減らしている親会社があり、受注が減っている。

民芸木工家具

・去年と違い人流が抑えられなかったことで売上の横ばいを維持できたが今後の心配である。

印刷

・印刷用紙の値上げが年明け早々にあるとの通知があり、一層経営状況を圧迫するようなことになるのではないかと懸念される。

3. 卸売業



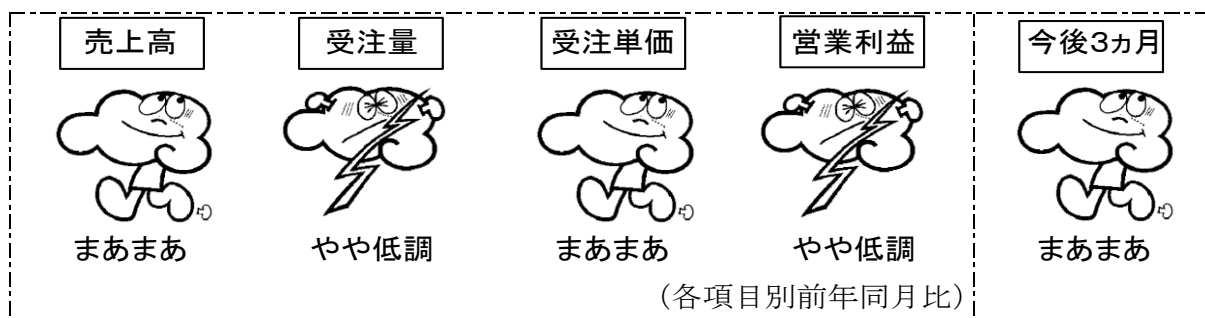
【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	9.1	8.3	40.0	40.0	23.1	54.5	23.1	25.0	0.0	33.4	58.3	9.1	27.3
販売客数	9.1	▲ 16.7	10.0	▲ 10.0	7.7	18.2	7.7	16.7	▲ 27.3	16.7	25.0	9.1	▲ 9.1
販売客単価	36.4	8.3	40.0	20.0	30.8	36.4	38.5	41.7	9.1	41.7	50.0	36.4	18.2
営業利益	▲ 9.1	0.0	30.0	0.0	▲ 7.7	27.3	15.4	▲ 8.3	▲ 9.1	25.0	25.0	▲ 18.2	▲ 18.2
見通し	▲ 9.1	▲ 25.0	0.0	10.0	0.0	▲ 9.1	0.0	8.4	▲ 18.2	▲ 16.7	0.0	▲ 18.2	▲ 18.2

<経営者の目・見方・e t c>

- 青果
 - ・野菜については天候に恵まれ豊作基調である。特に葉物野菜は前年より単価安で推移している。サンふじりんごがピークを迎え昨年より2割程度出荷量が多い中、贈答需要が伸び悩み、苦戦する展開である。
- 魚介類
 - ・新型コロナウイルス感染症に関する助成金や補助金がないため、営業しても赤字の見込みである。早期に収束し正常な経済活動とならないと厳しい。
- 土産品
 - ・全国旅行支援の影響もあり先月同様に好調である。土産品店のクーポン使用率は40%以上と売上に貢献しているが、新型コロナウイルス感染者が増えている中、今後への不安が残る。
- 金属製品
 - ・自動車関連の回復は見込めず来年へ期待する中、市中在庫はダブ付感があるものも増え、弱腰の状態である。しかし、高炉メーカー中心に電気代、副資材や運搬費といった経費アップの状況下でまだまだ値上げが思慮される。建築物件は流通倉庫や情報システム関連の大型案件といったものばかりで偏りが見られる。
- 自転車
 - ・円安は落ち着き始めたが、まだ仕入の値上げの話は続いている。消費者が慎重になっており、消費スタイルがネットなども含めて変化してきたととても感じるようになった。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	13.0	9.1	4.4	▲28.0	4.2	4.5	26.1	▲3.9	0.0	▲9.5	4.2	4.8	4.8
販売客数	13.1	0.0	▲4.4	▲32.0	▲4.2	4.6	17.4	▲15.4	▲33.3	▲9.6	4.1	0.0	▲4.8
販売客単価	▲13.1	27.3	0.0	4.0	16.7	0.0	8.7	▲11.5	▲11.1	4.8	0.0	▲4.8	0.0
営業利益	4.3	0.0	0.0	▲16.0	4.1	0.0	8.7	▲23.1	▲27.8	▲42.9	▲4.2	▲28.6	▲9.6
見通し	▲8.7	▲27.3	4.3	▲12.0	0.0	4.6	8.7	▲11.5	▲27.7	▲9.5	▲4.2	▲4.7	9.5

<経営者の目・見方・e t c>

洋菓子店

- ・菓子業界ではこれからクリスマスやバレンタインなど繁忙期に入る。しかし、有名店ほど労働基準法を超える労働時間が問題となっている。クリスマスも含め、働き方を考えなくてはならない。
- ・11月の売上は良かったが、12月は横ばい、もしくはほんの少し上昇のいずれかになりそうである。

和菓子
化粧品

- ・11月の上旬は観光客も多かったが、中旬以降は減ってきた。
- ・諸物価の値上がり、家庭における電気代等の値上がりは消費に大きな影響を与えている。特に物販にも多大な影響が出てくることを懸念している。

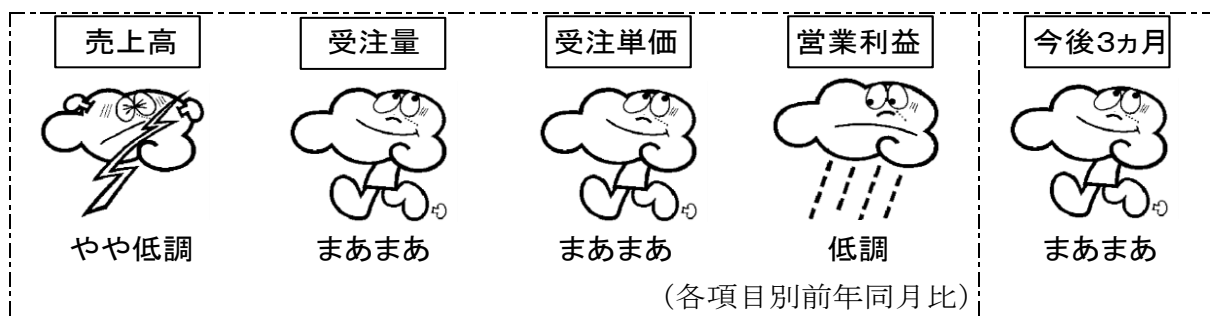
印章

- ・11月中旬に開催されたまつもと城町バルも、コロナ禍以前のような盛り上がりが見られず飲食店も街も相当厳しい状況だと見受けられた。七五三詣り、結婚式などで行き交う人が多く見られた。この人出が年末まで続くことを願うばかりである。

印章・刃物研ぎ
スポーツ用品

- ・観光客や外国人の方が多く見受けられ、通りにも活気が出てきた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、小売業では実店舗の売上がダウンして、インターネット等のECサイト経由での売上がのびている。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	5.3	16.6	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 35.3	0.0	7.2	11.8	5.9	33.4	20.0	30.8	▲ 6.6
販売客数	10.5	16.6	▲ 62.5	▲ 86.7	▲ 35.3	7.2	0.0	11.8	11.8	20.0	13.3	23.1	0.0
販売客単価	▲ 10.5	5.5	▲ 37.5	▲ 53.3	▲ 35.3	▲ 7.2	0.0	▲ 5.9	▲ 11.7	6.7	▲ 6.7	7.7	13.3
営業利益	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2	▲ 80.0	▲ 47.0	▲ 21.5	▲ 21.5	▲ 11.8	▲ 11.8	▲ 13.3	▲ 33.3	▲ 30.8	▲ 26.7
見通し	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 43.8	13.3	11.8	7.2	7.1	11.8	▲ 11.8	▲ 20.0	6.7	▲ 7.7	13.3

<経営者の目・見方・e t c>

料理

そば

ラーメン

寿司

食堂

郷土料理

創作料理

- ・人の動きは出てきたが単価は低く12月へ繋がるかどうか心配である。
- ・紅葉シーズンで県外から大勢のお客様に来松していただき感謝の一言に尽きる。3年ぶりに目にした光景であり、ゆっくりでいいのでコロナ禍以前に戻って行って欲しい。
- ・新型コロナウイルス感染者数が急増したので客足が鈍い。
- ・来店客数、テイクアウト数がコロナ禍以前の数字にかなり近づきつつある。仕事が忙しくなっているのだがその反面、原材料やそれに付随する備品、光熱費等の値上がりで思うように利益が上がらないのが現状である。
- ・コロナ禍以前のようにはいかないが、予約も増えてきた。御法事の予約なども増え、このまま行って欲しいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染者は毎日多発しているが、街の人出は多い。土日のイオンモール周辺は車が渋滞するようになった。
- ・全国旅行支援のおかげか、旅行客で観光クーポンの利用が増えた。週末の人出も多くなり、新型コロナウイルス感染症を気にしないような動きも見える。宴会が少ないのはコロナ禍の影響もあるようである。
- ・景気動向調査を見ると飲食業は売上を伸ばしているようだが、地域性によるものか警戒感からか当店の来客はゼロではなかったがコロナ禍以前と比べると10%と相変わらずの低調に終わった。12月の予約5組54名がすべてキャンセルになってしまった。現状、予約はゼロの状態であり、どこまで耐えることができるのかわからない。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R3年11月	12月	R4年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0	▲ 12.0	9.8	5.0	19.0	17.0	4.8	7.5	0.0	0.0	▲ 2.7
販売客数	▲ 14.3	▲ 10.0	4.7	▲ 23.8	▲ 4.8	▲ 2.5	11.9	7.4	2.4	7.5	▲ 2.6	7.5	5.4
販売客単価	▲ 4.8	▲ 12.5	▲ 2.3	▲ 14.3	0.0	0.0	0.0	7.3	▲ 2.4	2.5	5.1	7.5	10.8
営業利益	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7	▲ 31.0	2.4	▲ 12.5	7.1	2.4	▲ 2.4	0.0	▲ 7.7	▲ 5.0	▲ 16.2
見通し	▲ 7.2	▲ 17.5	▲ 20.9	2.3	2.5	15.0	9.6	4.9	7.1	15.0	5.1	2.5	▲ 5.4

<経営者の目・見方・e t c >

旅館

温泉旅館

ホテル

観光旅館

ホームクリーニング・リネンサプライ業

リラクゼーション

獣医

ペットサービス

機械設計

タクシー

- ・長野県内の新型コロナウイルス感染者数が10万人当たりでみると全国ワースト3まで悪化しており今後の動向に注目せざるをえない。
- ・全国旅行支援割のお陰で好調な売上であった。但し、個人的な意見として、そろそろ旅行支援は終わらせた方が良く考える。ばらまき政策は、短期的にやるのは有効だと思うが、1年もやっていると慢性化してその政策が無くなった後の影響が大きいと思う。何より誰もが安易に受けられる補助金はほとんど意味が無いと思う。補助金を使うなら設備投資の補助や新たな事業を起こす為の補助に予算をまわした方が効果的であり、無駄がないと思う。
- ・人手不足の問題が顕著になってきている。
- ・全国旅行支援のおかげで宿泊とそれにとまなう飲食は好調であった。会議の利用や宴会の予約は入ってくるがキャンセルが多い。
- ・天候にも恵まれ、全国旅行支援や個人の外国人観光客の入国の解禁もあり順調な入込であった。一方、従業員の数が足りず客室の稼働を抑えなければならない事態となり従来の営業がアルバイトの来る週末にしかできず思ったより売上を伸ばすことができなかった。
- ・原材料の高騰により、なかなか利益が上向かない。人手不足が生産性を著しく低下させている。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延し続けている。
- ・半分の従業員が新型コロナウイルス感染症に断片的に罹って出勤の業務のやりくりで苦労した。経営状況は前年度より良好であった。
- ・10月、11月共にスタッフ不足のため、売上、客数ともに前年を割っている。しかし、全国旅行支援の影響でホテルの利用は増えた。
- ・まだ物資の不足は続いている。現時点で受注すると納期が2024年となり、部品発注から12ヶ月かかってしまっている。この分だと来年も続きそうである。
- ・上高地線道路が先月冬季閉鎖となったため全車が市街地での営業となった。

ソフトウェア

・いくつかの顧客から引合はあるものの、システム投資が抑えられており受注に紐付かない。大手元請けからの案件を取り合う状況である。顧客側では、システムを支えてきたエンジニアが定年を迎え、今後若手の育成とシステムの引継ぎが必要で至急の課題となっている。